

上映&監督トーク

奪われた村

避難5年目の飯館村民

ドキュメンタリー映画

『奪われた村 避難5年目の飯館村民』上映会& ラウンド・テーブル
「フクシマの今を考える—豊田直巳監督を囲んで」

2016

11/2

(水)

福島第一原発事故から5年！

避難を余儀なくされた飯館村の人々を追ったドキュメンタリー作品「奪われた村 避難5年目の飯館村民」の上映会とフォトジャーナリスト豊田直巳監督を囲んでのトークショーを開催。福島美しい村々から一体何が「奪われた」のかを皆さんにお伝えします。そして、福島に対して私達にはいったい何ができるのか？共に考えてみませんか？

参加費無料 事前申込不要

日時：2016年11月2日(水)
場所：神戸大学文学部A棟331教室
主催：神戸大学人文学研究科

「日本文化社会インスティテュート」

第一部：『奪われた村』上映会：16:00～
第二部：『フクシマの今を考える』17:10～
報告：豊田直巳（フォト・ジャーナリスト）
討論者：荻野昌弘（関西学院大学・社会学部教授）
平井晶子（神戸大学人文学研究科准教授）
原口 剛（同准教授）
司会：嘉指信雄（同教授）



監督 豊田 直巳
フォトジャーナリスト

映画「遺言 原発さえなければ」共同監督

著作より
『福島を生きる人びと』
（岩波書店、2014）
『終わらないイラク戦争
フクシマから問い直す』
共編著（勉誠出版、2013）
『フクシマ元年 原発震災全記録』
（毎日新聞社、2012）
『イラク 爆撃と占領の日々』
（岩波書店、2003）

お問い合わせ nkazashi@gmail.com (嘉指)

STORY

奪われた村

避難5年目の飯舘村民

5年を経て明らかになる放射能汚染地帯の現実

福島第一原発の爆発直後のまだ村にヨウ素131が漂い、セシウムが強烈な放射線を放っている時期には「安全だ」と言われて村に留め置かれ、半減期8日の放射性ヨウ素が放射線を放って消滅した頃になって村民全員がふる里を追われた飯舘村。

以来、村人は放射線被ばくによる健康不安、慣れない仮設住宅に暮らすストレス、共同体の崩壊による孤独感を味わってきました。

そして時を経るごとに実感するようになるのは、原発事故によって奪われたものの大きさでした。

しかし、村を追われ、理不尽さを耐え忍んできた人々が、いま、声を上げたのです。原子カムラに叛旗を翻すべく、ADRに申し立てたのです。「謝れ！償え！かえせふるさと飯舘村」と。



102歳で自殺した義父の遺影の前の大久保美江子さん



村に残さざるを得ない犬に餌をやる

このドキュメンタリー作品は人口の過半数を超える3000余名の村民が立ち上がった「謝れ！償え！かえせふるさと飯舘村」原発被害糾弾飯舘村民申立団の協力を得て取材撮影されました。

また製作に当っては同申立団を法的に支える弁護団の協力の下、ドキュメンタリー映画『遺言～原発さ得なければ』の共同監督でフォトジャーナリストの豊田直巳が、自らカメラを回し、また構成・監督を務めました。

撮影は昨年（2015年）3月から今年、4月まで1年に及びました。それは、村民が「奪われたもの」が何なのかを、製作する側が実感するためにも必要な時間でした。しかし、村人自身が「奪われたもの」が何なのかを自覚するまでには5年という、あまりに長い苦渋の歳月があったのです。

この作品に登場する村人の眼前に、そして心の中にあった「美しい村」から何が「奪われた」のか、是非、ドキュメンタリーをご覧ください、ここに留め置かれること願いつつ……。

監督 / 撮影 豊田直巳 2016年 / 64分 / 日本語 / ドキュメンタリー



追われた村の隣町に借りた畑で

豊田監督から

「シリアには行かないんですか？」「今度はいつイラクに？」と聞かれます。でも、私には5年前から日本も戦場になってしまっていたのです。福島第一原発が爆発したとき、福島に向かって私はカメラバックにガイガーカウンターを入れていました。それは、イラクの戦場取材で使っていたものです。米英軍が攻撃機や戦車で撃ち込む劣化ウラン弾も目には見えない放射線を調べるためでした。

そして、福島ではそのガイガーカウンター役に立ったのです。とても残念で悔しいことでしたが……。

それにしても、その放射線測定器を「まさか日本で使うようになるとは」と思いながら。

2年前に公開した映画『遺言～原発さ得なければ』（野田雅也氏と共同監督）でも放射能から逃げ後れた住民の方は、高濃度汚染地帯に取り残されたままこう言ったのです。「目に見えない戦場で戦っているみたい」と。この『奪われた村』は、「見えない戦場」で続く「戦争」の下に生きる人びとのドキュメントです。

2016年6月 豊田直巳



2011年4月 南相馬市